

# 課題 A : 「各種観測データの一元化」

課題責任機関： 国立研究開発法人 防災科学技術研究所

事業責任者： 上田 英樹

火山研究推進センター 主任研究員

地震津波火山ネットワークセンター 火山観測管理室長

# 説明内容

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響
- ② データの登録状況とシステムの開発状況
- ③ JVDNシステムの利活用推進のための取り組み

# 新型コロナウイルス感染症の影響

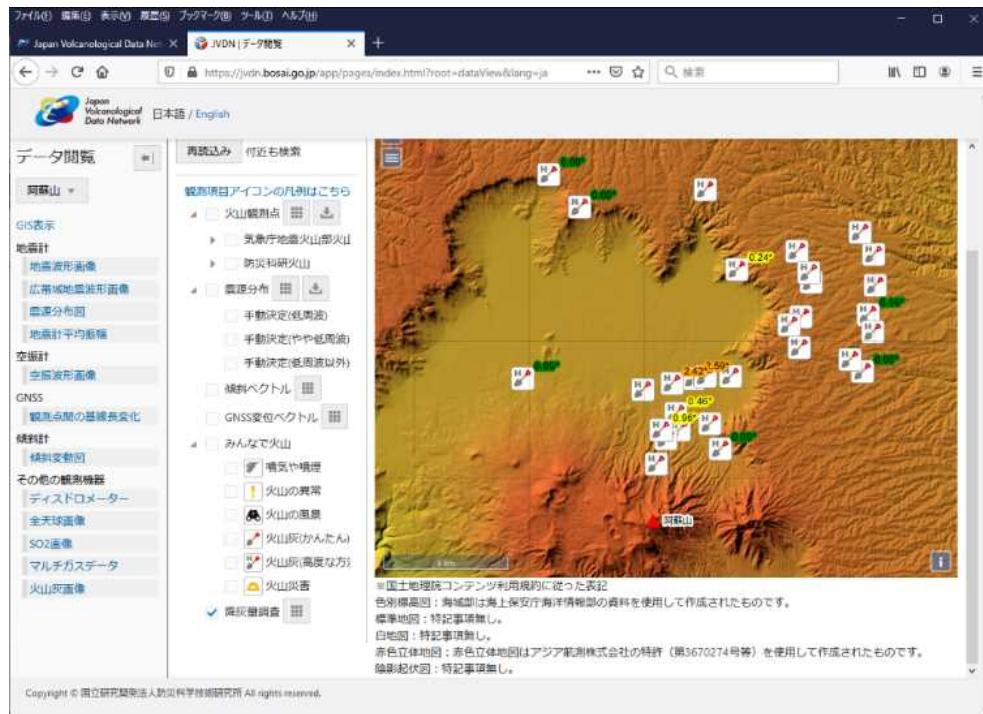
- 課題Aには、大きな影響なし。
- IAVCEI2021（ニュージーランド）に参加予定だったが、1年延期された。
- サーバがあるシステム室が一時入室禁止、テレワークによる保守対応となった。しかし、大きなトラブルは無く、システムは安定に運用されている。

## データの登録状況

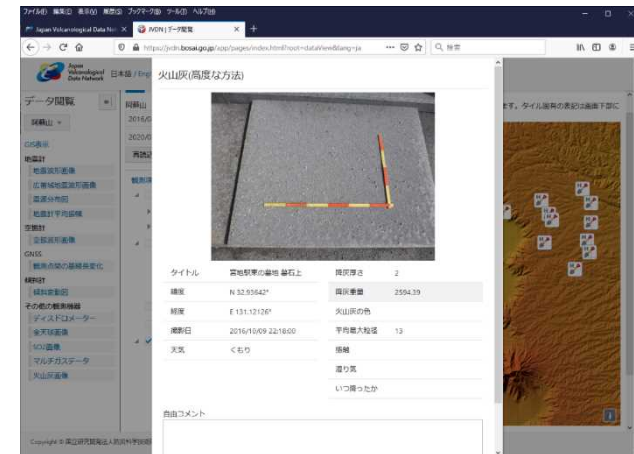
- 2020年1月以降、神奈川県温泉地学研究所、国土地理院、東北大学、北海道大学、九州大学のデータを公開した。（国土地理院は、データ表示のみ）
- 京都大学防災研桜島観測所のデータについては、現在協議中で、年度内に登録見込み。
- 課題B3の火山ガス・温泉水の分析データについては、データフォーマット、登録方法などについて協議中。来年度に登録機能を開発予定。
- 課題B4の電磁気データも協議中。

# 運用を開始した機能：降灰調査データの共有機能

降灰量や写真などの降灰調査データを登録して表示する機能。  
 噴火時は、防災科研、大学、気象庁、国交省等の関係機関でデータ登録、情報共有することになっている。



降灰調査結果



## 運用を開始した機能：合成開口レーダ（SAR）解析結果の表示機能

課題B2との連携。

SARの干渉解析結果（スラントレンジ変化）をGIS上に表示できる。また、解析結果もダウンロード可能

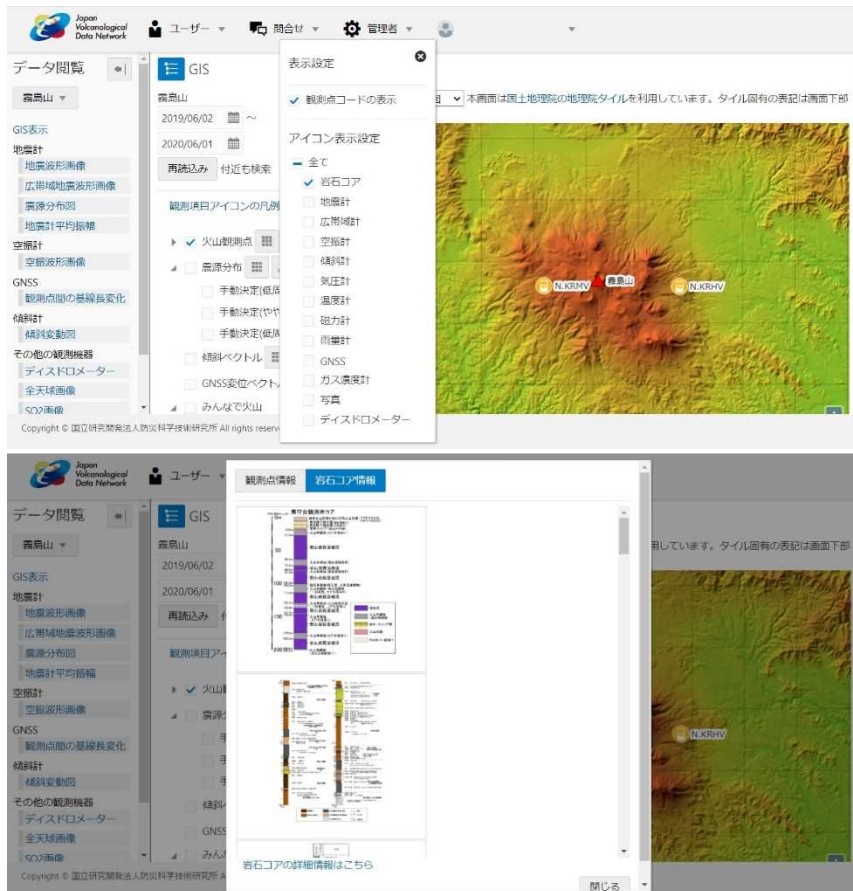




# 運用を開始した機能：岩石コアのデータの共有機能

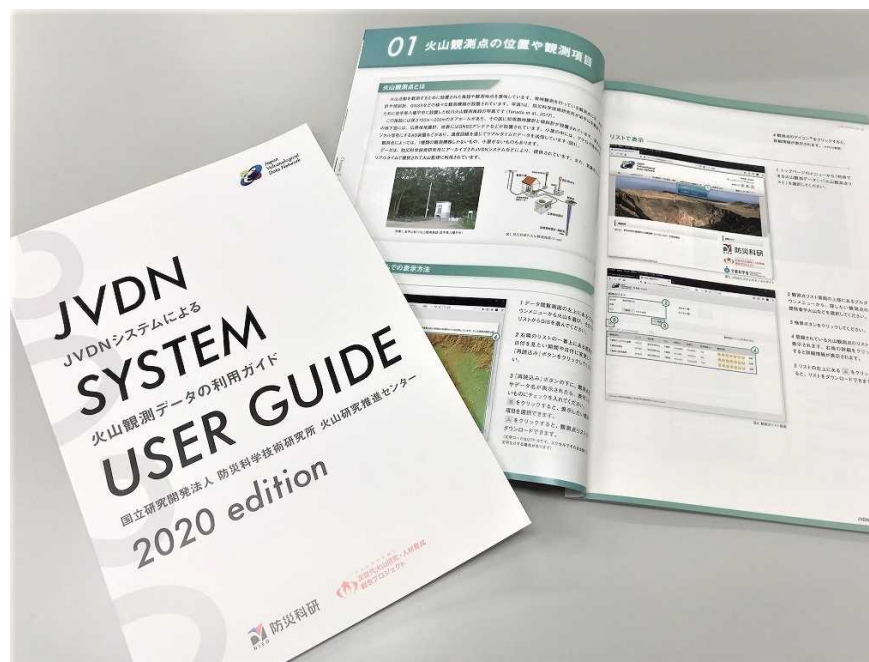
課題C2との連携

岩石コアの採取地点、コアの写真、柱状図、一次記載の論文等を登録して共有できる機能。



# 利活用推進のための取り組み：利用ガイドの作成

JVDNシステムの利活用推進のため利用ガイドを作成して、関係機関に配布した。電子版をインターネットで公開している。  
COVID-19への対応のため、暫定版を4月に公開。

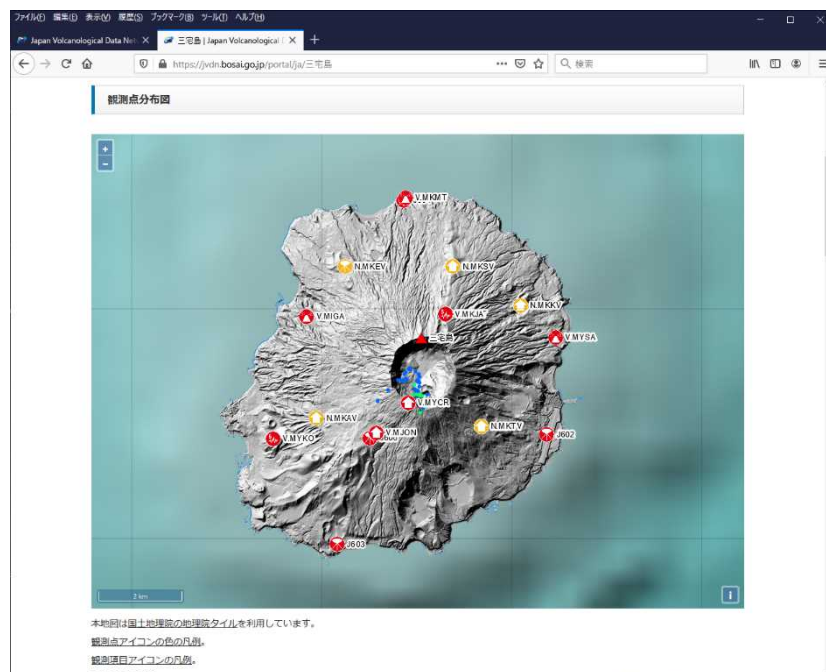


JVDNシステム利用ガイド

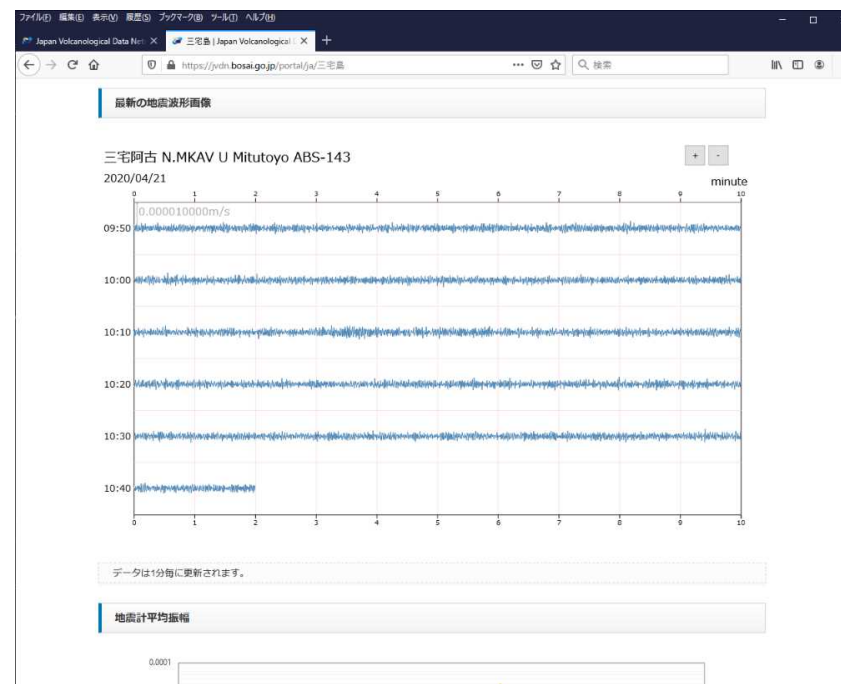


# 利活用推進：リアルタイムデータ表示機能

リアルタイムの地震波形やGNSSデータを表示  
 災害時にこのページを通じて情報提供を行う予定。  
 山梨県富士山科学研究所では、一般向けの展示物として活用されている。



最新の震源分布

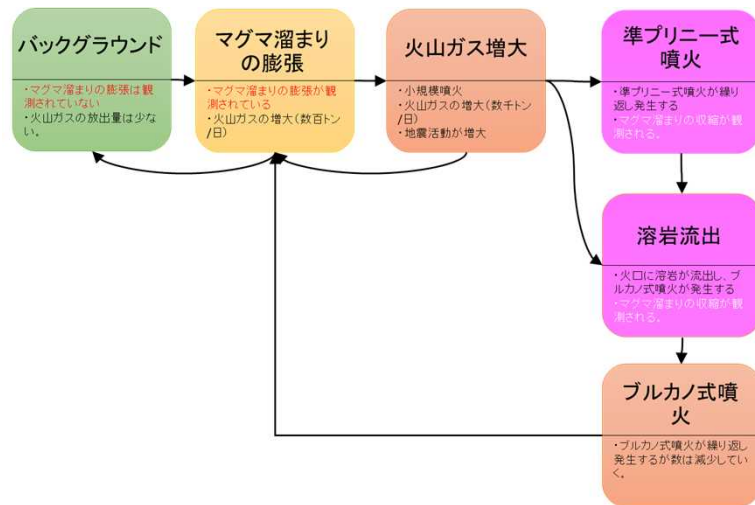


最新の地震波形

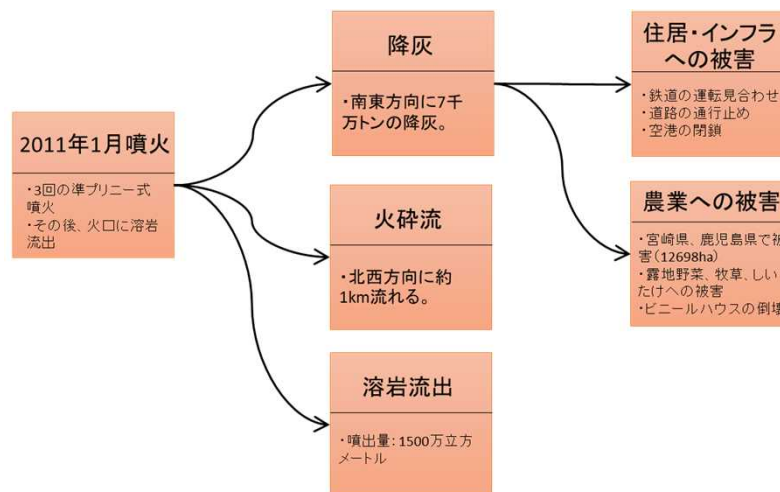
# 利活用推進： データ共有から認識の共有へ

データのほとんどは専門知識が無いと使えない。  
 認識の共有とは、専門能力や知識があまりなくても、データの意味が理解して共有できること。  
 認識が共有できれば、火山の比較研究、研究分野の連携や防災などに広くデータが活用できる。

火山活動の推移を表す状態遷移図



火山災害の過程を表すイベントツリー



過去の火山活動や災害の経験、経験的に得られた規則性や周期性をシステム設計図で表したものの。

## 開発中の主な機能

- 写真の登録機能
  - 噴火や災害時の写真を登録して公開できる機能。
- 任意のファイルの登録機能
  - 任意のデータセット、開発したプログラム等を登録して公開できる機能。
- GISの背景地図に地質図
  - 産総研の火山地質図、20万分の1日本シームレス地質図を背景地図に選択できるようになる予定。